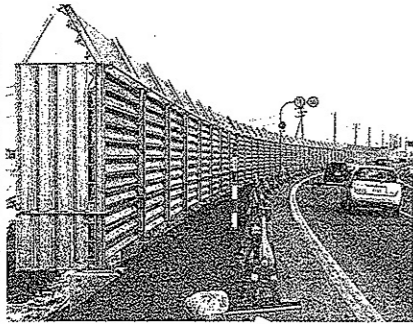


新製品

「斜風対応型防雪柵」
飛雪の巻き込みを防止
国道7号B.P.に採用



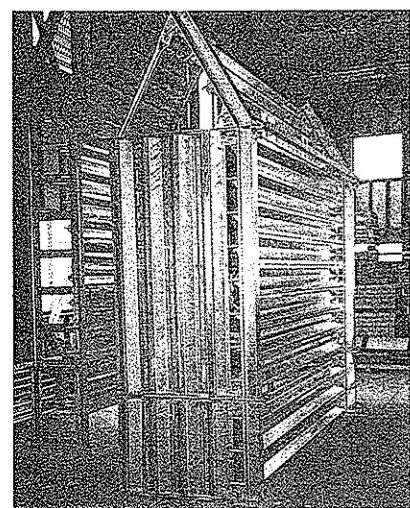
県内でも長年の実績がある防雪柵メーカーの理研興業(株)本社・北海道小樽市・柴尾耕三社長は、斜風に高い効果を発揮する「斜風対応型防雪柵」(実用新案登録)を開発し、生産販売している。すでに本県の東北地方整備局酒田河川国道事務所管内の国道7号バイパスに採用設置。写真。

柵に取り付けられた垂直の整風板の風上側に堆積させることで、路上への巻き込み防止や視程障害の緩和を実現した画期的な製品。構造は直立部と忍び返し部、整風板の三つの部分で構成され、整風板は幅約1mで高さは直立部と同じで、直立部に対し垂直に取り付けられており、間隔は1スパンごとにある。柵本体に対して斜めに吹き

付けており、関係者の間で高い評価を受けている。「斜風対応型防雪柵」は、北海道工業大学機械システム工学科・白濱芳朗教授の研究室と当社が共同開発した製品で、防雪柵直部に垂直の整風板を取り付けられ、風上側に堆積させることで、路上への巻き込み防止や視程障害の緩和を実現した画期的な製品。構造は直立部と忍び返し部、整風板の三つの部分で構成され、整風板は幅約1mで高さは直立部と同じで、直立部に対し垂直に取り付けられており、間隔は1スパンごとにある。柵本体に対して斜めに吹き

付ける風雪を各スパンごとに堆積させる一方で、忍び返し部で飛雪の巻き込みを防止することができ、従来型の防雪柵での柵に沿って流れた飛雪が路上に吹き込むなど吹き溜まりを防止、軽減できることが実証された。また、山間部を通る道路などは主風向が道路に沿って流れるような箇所は、従来型の防雪柵では効果が低く、必要性がありながらも設置できない場合も多いが、今回開発された「斜風対応型防雪柵」はこうした場所への設置が最適な製品で、

各種実験でも実証されている。同社では「どんな難易な現場にも対応できる防雪柵製品を取り揃えるのはわが社の責務。それぞれの地域条件に合った製品の開発を提供しながら、快適な道づくりを貢献していきたい」としている。なお、製品に関する問い合わせ先は、理研興業(株)東北営業所(青森市古川一丁目十番十三号青森古ビル二階、TEL017-7351188、FAX017-7351151)まで。



(写真・斜風対応型防雪柵)